

令和5年度 埼玉県体験活動推進協議会

加須げんきプラザ 試行事業取組報告



協力校：行田市立忍中学校

次 第

- 1 事前準備
- 2 試行事業当日
- 3 事後指導
- 4 教職員アンケートから
- 5 成果と課題

1 事前準備

4月20日 行田市教育委員会、行田市立忍中学校に
試行事業の依頼

6月 5日 忍中学校との事前打ち合わせ①

6～9月 指導案作成・内容の検討

9月27日 忍中学校との事前打ち合わせ②

10月上旬 指導案完成

10月31日 試行事業当日

1 事前準備

単元名

「体験活動を通じて、よりよい人間関係を築こう」
(第1学年 総合的な学習の時間)

単元の目標

様々な体験活動を通じて、生徒が互いに協働しながら
「よりよい人間関係」を形成しようとするとともに、これまで各教科等で学んできた知識や技能、見方・考え方を総合的に働かせて、主体的に課題解決を図ることができる。

1 事前準備

県立加須げんきプラザで

体験活動 をやってみませんか？



①手打ちうどんづくり体験

加須名物のうどんの打ち方を指導します。
粉からつくる、本格的な手打ちうどんです。

②ドラム缶オーブンでピザづくり体験

粉からピザ生地をつくる方法を指導します。
トッピングを行い、ドラム缶オーブンで焼き上げます。
※出前の場合、ドラム缶は職員が持ち込みます

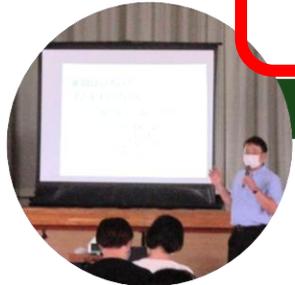


③野外炊事体験

火おこしを行い、飯ごうを使ったお米の炊き方を指導
します。カレーライスやおにぎりを作ります。

④人間関係づくりプログラム

アクティビティやレクリエーションを通じた
プログラムを実施します。



⑤スマホ講座

スマートフォンやゲーム機など、情報機器との
より良い関係について学ぶことができます。
※⑤は出前で行います。

⑥ウォークラリー

コース図を使い、課題を解きながらタイムと得点を競います。

⑦地域フォト巡り

写真と同じポイントを地図を見ながら探して巡ります。



※⑥⑦は加須げんきプラザ周辺で実施するため、出前は行っておりません。

1 事前準備

SDGsとの関連

<p>(①貧困)</p> <p>1 貧困をなくそう</p>  <p>野外炊事</p>	<p>(②飢餓)</p> <p>2 飢餓をゼロに</p>  <p>野外炊事</p>	<p>(③保健)</p> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>(④教育)</p> <p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>人間P 野外炊事</p>	<p>(⑤ジェンダー)</p> <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  <p>人間P</p>	<p>(⑥水・衛生)</p> <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 
<p>(⑦エネルギー)</p> <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  <p>野外炊事</p>	<p>(⑧成長・雇用)</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>(⑨イノベーション)</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>(⑩不平等)</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  <p>人間P</p>	<p>(⑪都市)</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>野外炊事</p>	<p>(⑫生産・消費)</p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>野外炊事</p>
<p>(⑬気候変動)</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>(⑭海洋資源)</p> <p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p>(⑮陸上資源)</p> <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>  <p>野外炊事</p>	<p>(⑯平和)</p> <p>16 平和と公正をすべての人に</p>  <p>人間P</p>	<p>(⑰実施手段)</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 	

1 事前準備

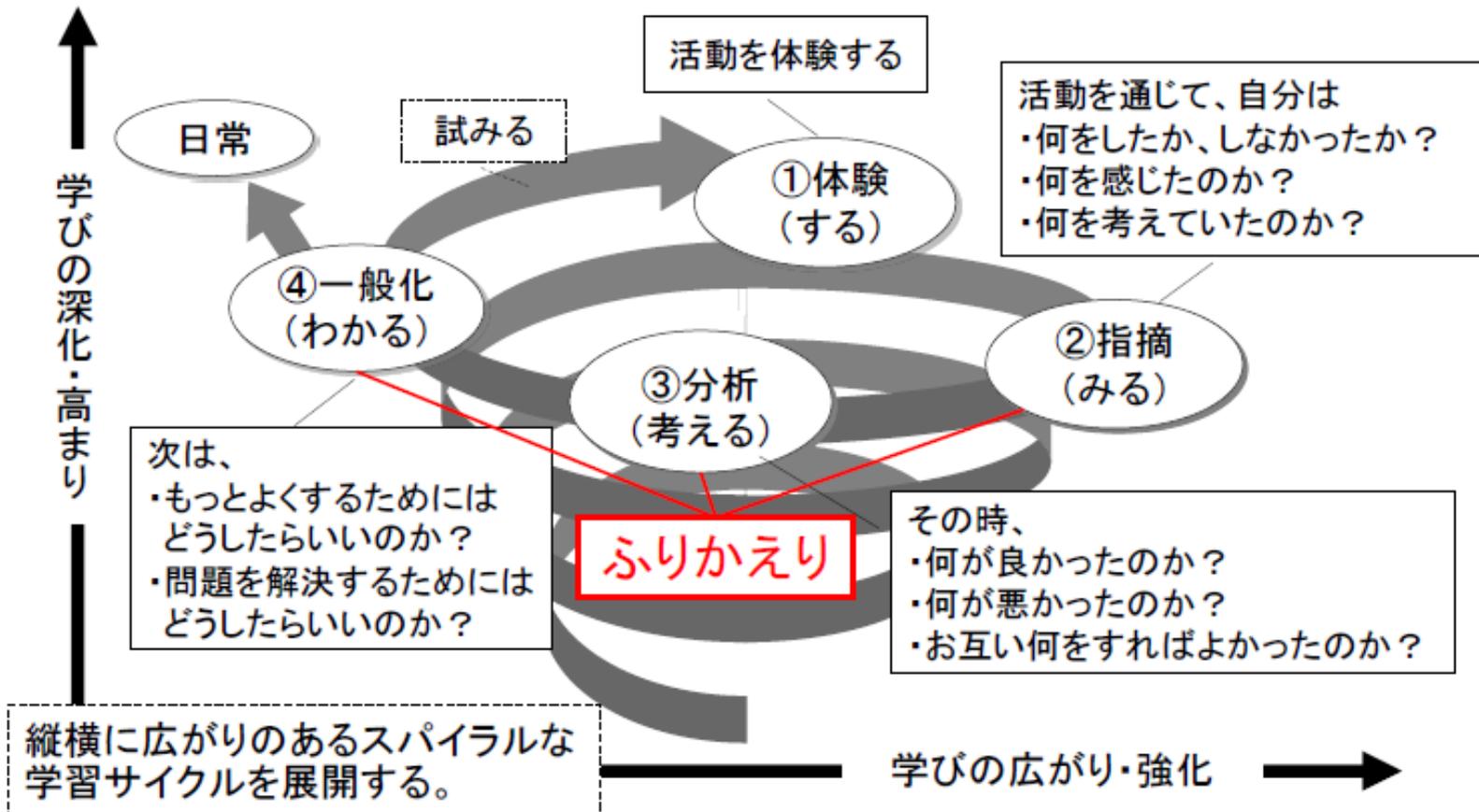
防災教育との関連 ～ポリ袋による炊飯～



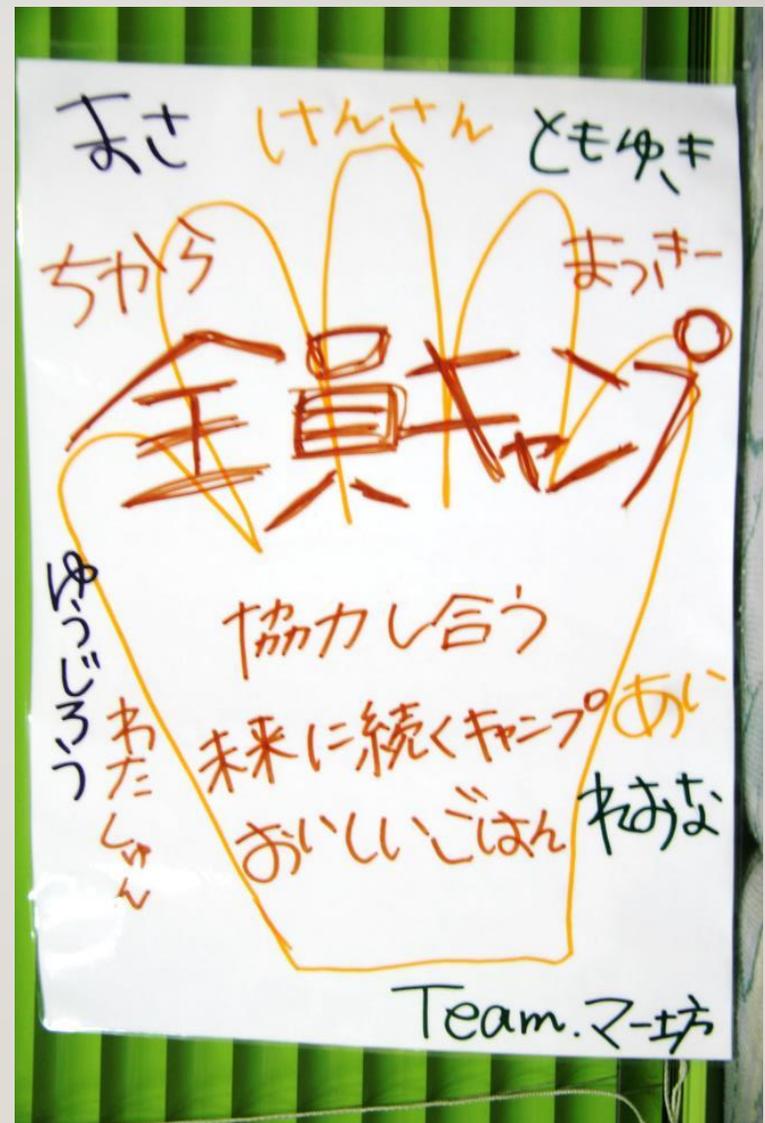
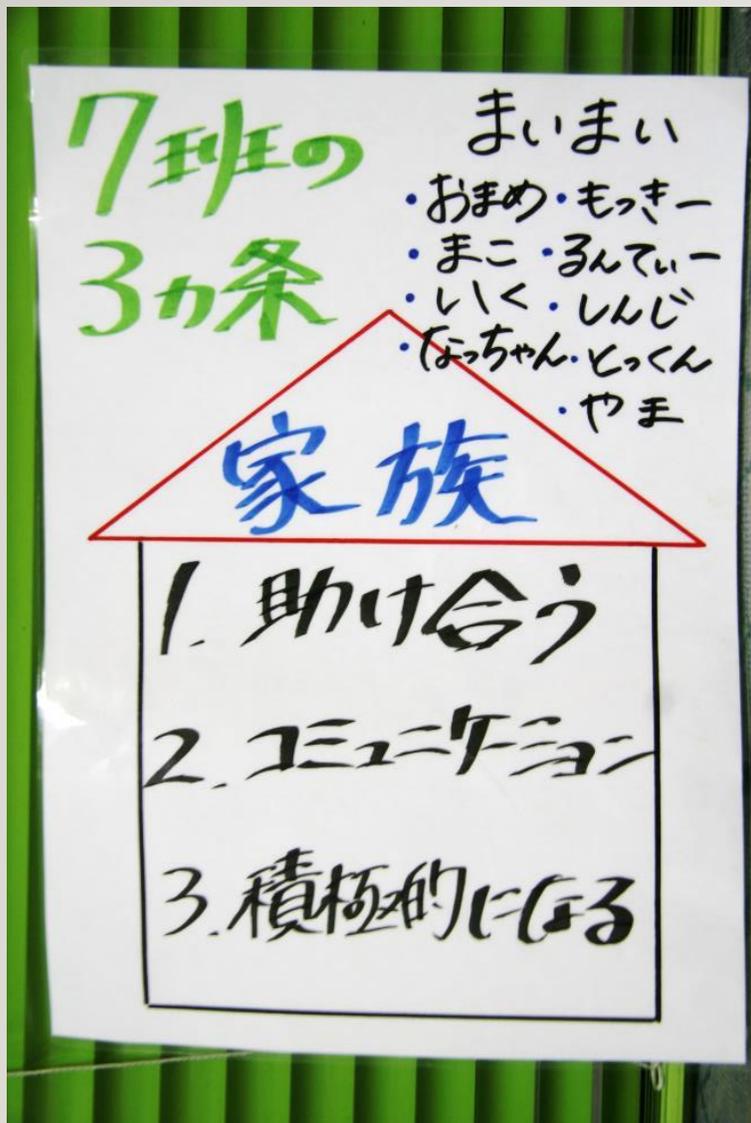
1 事前準備

体験学習の基本的な考え

体験を学びに結びつける「循環学習のプロセス」が大切



1 事前準備



ビーイングの効用



- ✓グループ(小単位)で目標や約束を決めることで、漠然とキャンプを過ごすのではなく、常に自分たちの行動を明確にふりかえることができる。
- ✓グループのメンバーと思い(目標)を共有することで、またそれに従って行動を共にすることで、メンバー同士の一体感や連帯感、仲間意識が生まれ、グループの凝集性を高めることができる。
- ✓仲間意識が高まることで、ある一定のルールに基づいて行動することで、心の安全を確保することができる。

2 試行事業当日

- ①はじまりの会 趣旨説明等（20分）
- ②ビーイング グループ目標と約束の決定（30分）
- ③野外炊事体験 ポリ袋による湯せん炊飯で
おにぎりづくり（145分）
- ④ビーイング 野外炊事の振り返り
- ⑤人間関係づくりプログラム 3つのアクティビティ
（90分：30分×3）
- ⑥ビーイング 人間関係Pの振り返り（10分）
- ⑦おわりの会 感想発表等（10分）

2 試行事業当日

ビーイング

「よりよい人間関係を築く」ためのグループ目標

みんなで協力し合い 仲良く 食事を楽しむ!

目標を達成するための約束 (3か条)

- みんなで協力しよう (声かけをする)
- みんなで仲良くする (ヤキカをしない)
- 食事を楽しむ (おいしくいただく)



2 試行事業当日

ビーイングの書き込みから①

【開始時のグループ目標】

- 相手の気持ちを考えて行動する。
- 思いやりの心で協力して行動しよう。
- みんなで協力し、絆を深めよう。
- 「MKT」 M(みんなで)K(協力して)T(助け合う)
- この機会に協調性を高めよう。
- 相手をよく理解して楽しく料理を作ろう。
- これからの生活で気軽に話せるような関係にする。



2 試行事業当日

野外炊事体験の目的

- グループ内で役割分担をし、それぞれが責任をもってその役割を遂行する。
- 試行錯誤しながら助け合って火おこしをすることで、協力性を高める。
- 災害時等であっても、最小限の道具や資源を使って調理をすることができるようにする。

理科との関連付け



どうやって薪を
組んだらいいか
な？

2 試行事業当日

ビーイングの書き込みから②

【野外炊事体験終了後の振り返り】

- ・ クラスのみんなと協力して作れたのが一番の宝物です。
- ・ 火の当番をみんなに任せられたのがすごく嬉しかった。
- ・ 外でご飯を炊くのが初めてだったので楽しかった。
- ・ 失敗した人がいても一言も文句を言う人はいなかった。
- ・ 自分のためではなく、他の人のためにも動くことができた。
- ・ 自分たちが頑張って作ったご飯は美味しかった。
- ・ 目標は個人としてもグループとしても守れたと思う。
- ・ 災害時などにこの経験を生かしたい。

2 試行事業当日

人間関係づくりプログラム

ルールの確認

- ① 否定的（マイナス）な発言をしない
- ② 積極的に参加！でも強制はしない
- ③ 活動後の振り返りの時間を大切に

指導者が心がけること

① 児童をよく観察する

- ・ 積極的に活動したのは誰か
- ・ 指示を出していたのは誰か
- ・ 受け身の姿勢、活動に参加できていないのは誰か

② 見守りに徹する（助言は必要最小限に）

- ・ できるだけ児童に考えさせる
- ・ 活動できなくなっていたら助言する

2 試行事業当日

「たかめあい」プログラムの様子



ヘリウムフープ



パイプライン



マシュマロリバー

2 試行事業当日

ビーイングの書き込みから③

【人間関係づくりプログラム終了後の振り返り】

- ・ 相手の気持ちを考えて行動することが大切だった。
- ・ 楽しく行動できたし、人間関係もよくなったと思う。
- ・ どれも チームワークが必要で、やりがいがあった。
- ・ 励ましの言葉を使うことが大事で、責めてはいけない。
- ・ 短時間でこんなに仲良くなれるんだと思いました。
- ・ やっぱり 声かけが大切。今後の 関係が深まりそうで 楽しみ。
- ・ 一人ではできないことも仲間と協力すればできることを学んだ。この 団結力を日常生活に生かしていきたい。

3 事後指導

道徳の授業

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 「(8) 友情、信頼」

主題名 相手のよさを認め合う

教材名 クラスメイト

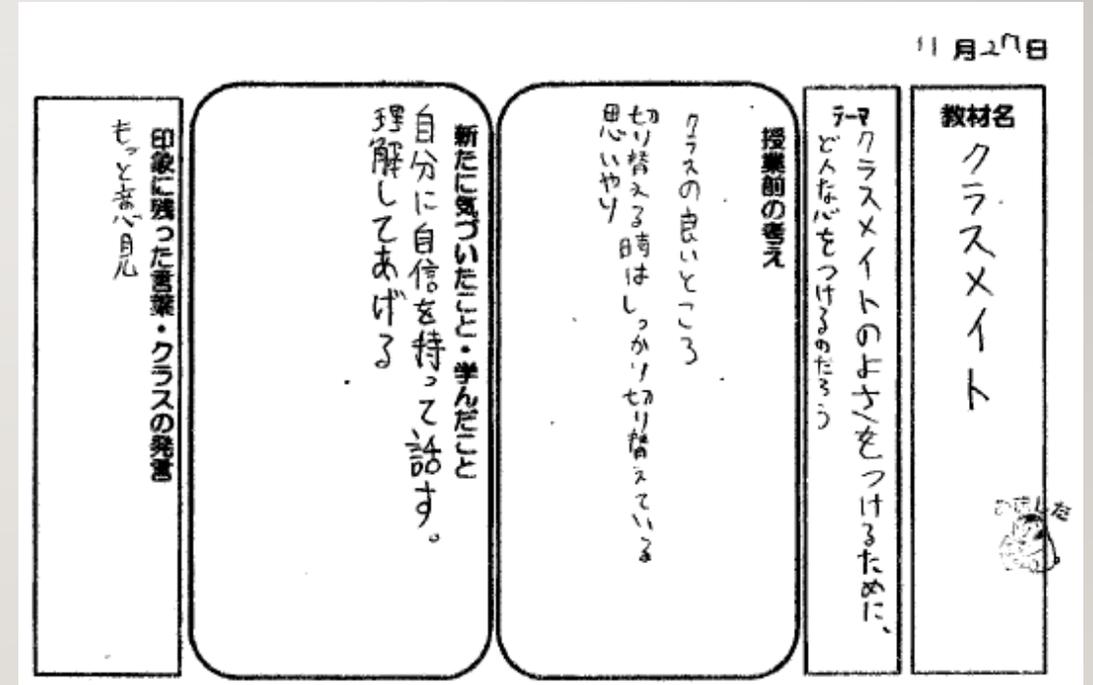


(学研：新・中学生の道徳 明日への扉)

3 事後指導

道徳の授業での生徒の感想①

- よりよいクラス、人間関係をつくるためには、男女問わずいろいろな人と仲良くすることが大事。
- 関わっていく中で、相手のことを考えて発言したり、自分の発言に気をつけたりしていきたい。



3 事後指導

道徳の授業での生徒の感想②

- マイナスな言葉ではなく、プラスの言葉を使って、仲間の良さについての言葉をかける。
- あまり話したことがない人に話しかけて、自分一人だけでも 何か気づいたことがあれば声かけをする。
- 自分に自信をもって話し、相手のことを理解する。
- 相手の気持ちを先に考えて行動する。
- 異性や自分自身が苦手、という気持ちで壁を作らずに、 広い視野をもって声かけをする。

4 教職員アンケートから

【実施したプログラムの満足度について】

- ビーイングの振り返りで、「友人に厳しいことを言ってしまった」という生徒もいた。自己の行動を客観視し、自ら改善しようとするよいきっかけとなった。
- 野外炊事については、せっかく火を使う体験ができたので、米を炊く以外の要素も盛り込めるとよい。

4 教職員アンケートから

【次年度以降の継続した実施について】

- 体験活動の目的はとても良いが、準備や打ち合わせの時間をもう少し確保する必要があると感じる。
- 発達段階に応じた難易度となるよう、より効果的な活動を考えていけるとよい。

4 教職員アンケートから

【各教科と結びつけたことで、生徒の学びが「主体的・対話的で深い学び」となったか】

- ・ 道徳の授業で、生徒たちの感想から、「相手のことを考えて発言する」や「マイナスな言葉ではなくプラスの言葉を」と書いた生徒がいた。今回の「人間関係づくりプログラム」で学んだ、相手の良いところに気づき、認める視点が生徒の中に浸透したのだと感じた。

4 教職員アンケートから

【他の学校でも実施できるようにするには】

- 教科指導に結びつく 実践的なワークシートや教具があるとよい。
- 発達段階に応じたプログラムが選べるようになるとうい。
- 十分な準備や打ち合わせの時間を設けた方がよい。
- 当日の 実施時間をもう少し短縮できるとよい。

5 成果と課題

【成果】

- 生徒たちの当日や事後指導の様子から、今回の活動がよりよい人間関係を築くための一助となったことが伺えた。
- 振り返りを取り入れた体験活動を通じて、他者を尊重して協力し合うことの重要性を生徒たちに伝えることができた。

5 成果と課題

【課題】

- ▲ 発達段階に応じたメニューを提供することができるよう、発展的な活動や新たな活動を積極的に開発していく必要がある。
- ▲ 教育課程に組み込むためにも、短時間で実施することができるようにする。
- ▲ 実施する ねらいや効果を明確にするための資料を提供すると、学校が導入しやすくなる。

今後も「よりよい人間関係づくり」のための体験活動プログラムを学校に広めることで、豊かな人間関係づくりのための「気づき」や「きっかけ」を与えられるよう努めてまいります。

ご清聴ありがとうございました

